

## 平成29年度 北海道小学校長会地区活性化支援授業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 小樽地区
- 2 事例報告学校名 : 小樽市立手宮中央小学校
- 3 報告者 : 校長 大坂 充
- 4 キーワード : 地域の特色を生かした特色ある教育課程, 地域連携

### 1 はじめに

手宮中央小学校は、小樽市の北東、手宮公園の西端に接する小高い丘「煤田山」に位置しています。校舎の東側に北限の栗林「手宮公園」・「小樽手宮公園競技場」・「手宮緑化植物園」、そして眼下には北海道鉄道発祥の地に建つ「小樽市総合博物館」や歴史的建造物「旧日本郵船（株）小樽支店」、国指定史跡「手宮洞窟」などがあり、自然と文化遺産に恵まれた学校です。

本校は平成28年4月に、手宮小学校・手宮西小学校・北手宮小学校・色内小学校(一部)を統合してできた開校2年目の学校です。「やさしい心をもつ子ども 自ら学ぶ子ども たくましい子ども」の教育目標の下、温かい地域の方々に見守られながら児童は元気に登校しています。

今年度の学級数は12（特別支援学級を含む）、児童数236名。工事中だったグラウンドも完成し、教育環境が整った中で、協力的な保護者・地域に支えられ、意欲的に教育活動を推進しています。重点目標を「手と手をつなぎ みんな やさしい 中央の子」とし、学校・家庭・地域が一体となって目指しています。



### 2 特色ある教育

平成28年4月に開校するため、閉校となる4校の教職員、保護者、地域や同窓会等の関係者による統合協議会を組織し、新しい学校が目指す教育や特色ある教育などについて時間をかけて話し合われました。4校の歴史と文化という不易を生かしつつ、未来を担う児童の育成を目指し、「特色ある教育」を教育課程に位置付け、推進しています。

#### (1) 小樽観光案内人ジュニア

古くから北海道有数の港湾都市・商業都市としての栄え、かつては20万人を超えた小樽市の人口も1970（昭和45）年頃から減り始め、現在では12万人を割っています。しかし、歴史と文化の足跡残る街並みや美味しい海産品などを目当てに、北海道内外や海外から毎年800万人近い観光客が訪れる観光地となっています。

本校の5・6年生は、小樽の観光産業を支える人材の育成と市民レベルでのホスピタリティ意識の醸成を目的として作られた「おたる観光大学校」のご協力を受け、「おたる案内人ジュニア育成プログラム」に取り組んでいます。



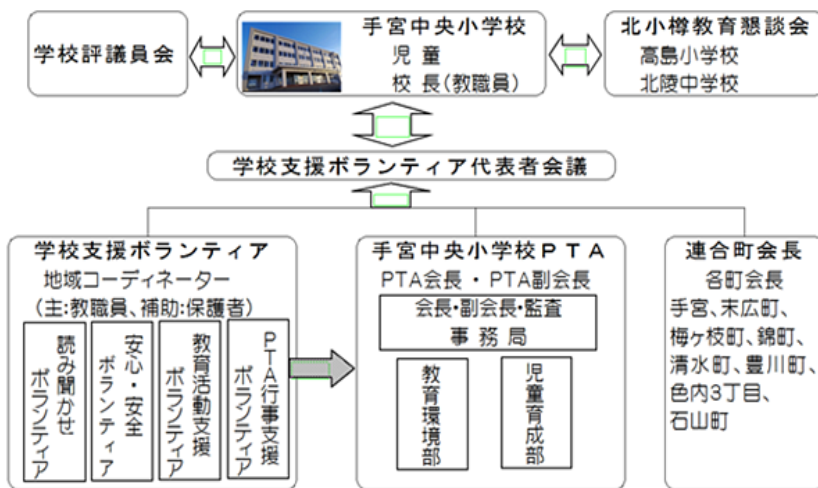
このプログラムは、5・6年生の総合的な学習の時間に「おたる案内人」検定有資格者が講師となって授業を進めたり、小樽市総合博物館の協力を得たりして、小樽の歴史や文化を学習し、最終的には観光地にて観光客に観光案内するまでを行います。この活動を通して、コミュニケーション能力や表現力の育成はもとより、郷土への愛着を養い、小樽の次世代を担う人材育成につながると考えます。

5年生からこのプログラムを使って総合的な学習の時間に学んできた6年生は、9月には校区にある観光地に出かけ、「北運河」や「旧日本郵船小樽支店」、「旧手宮線」、「石造倉庫」などについて、観光客や地元の方に説明しました。この学習を通して、児童は郷土・小樽への愛着を深めるとともに、統合した学校に誇りをもち、新たな学校文化を築いて後輩へとバトンをつないでいきます。



## (2) 学校支援ボランティアから「コミュニティ・スクール」へ

小樽市では、平成21年に策定した「小樽市立小中学校学校規模・学校配置適正化基本計画」を基に、市民の理解と協力の下、学校再編を進めています。新しい学校づくりを進める上で、最も重要な役割を担うのが「統合協議会」という組織です。統合協議会は、教育委員会を事務局に、学校・保護者・地域、同窓会等から選出された委員からなり、それぞれの立場から新しい学校づくりに関わります。学校づくりに関わった統合協議会は、開校とともに解散しますが、その後の学校を支える組織として生まれ変わります。それが本校では「学校支援ボランティア」です。



学校支援ボランティアは、水泳学習やスキー学習等の学習活動を支援する「教育活動支援ボランティア」、朝や長期休業中の読み聞かせを中心に活動する「読み聞かせボランティア」、登下校や放課後の安全を見守る「安心・安全ボランティア」、雪まつりなどのPTA行事を支援する「PTA行事支援ボランティア」の4つからなります。統合を機に、統合前の学校や校区の支援方法を発展的に再構成し、小樽市の学校支援ボランティアにも登録した新たな

組織として規約等も整理しました。さらに連合町会の代表やPTA会長も含めた代表者会議を設立し、学校からの要請を受けて機能的に活動できる組織として立ち上げることができました。

今年度は、小樽市より「コミュニティ・スクール導入促進事業」の指定を受け、次年度以降のコミュニティ・スクール導入に向けた準備を始めています。今年度は、コミュニティ・スクール先進地である伊達市で視察研修をしたり、北海道CSアドバイザーを講師に招いての地域説明会を開催したりして滑らかな移行に向けて研修を重ねています。



## 3 おわりに

本校は開校2年目の若い学校です。近隣4校との統合は、それぞれの学校の歴史と文化、地域や同窓会との関係も重なり、苦難の連続でした。しかし、統合への歩みは各校の伝統を失わせることなく、発展的に再構築していくものと捉え、新たな枠組みの中で不易を生かし、流行を取り入れた学校として歩み始めることができました。それは、ここに紹介した二つの例にとどまることなく、3・4年生から行う英語教育の充実や授業改善推進チームの取組、公開研究会の実施、そして何より日々の授業実践に現れています。本校が新たな学校文化を創り、地域や近隣小中学校とともに誇るべき伝統を築いていくように今後も確実な一歩を刻んでいきたいと思ひます。